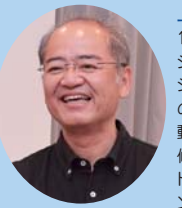
食卓が華やぐ多彩な味わい
ワインを極める ❶

※366号から3回にわたって「ワインを極める」をご紹介します。



上田 敦史 氏
1960年生まれ。メルシャン㈱ワイン営業部シャトー・メルシャングループ シャトー・メルシャン ビジターセンター長。大阪府出身。1983年三楽オーシャン㈱［現:メルシャン㈱］入社。主にホテル・レストラン、ワインショップへのワイン営業を長く担当し、特に「シャトー・メルシャン」の魅力を広める活動に注力。2007年エデュケーショングループにてワインに関する社員研修・教育に従事後、コンセプトショップ「シャトー・メルシャン トーキョー・ゲスト・バル」（六本木）の運営にも携わった。2015年4月より現職。シニアワインアドバイザー［（一社）日本ソムリエ協会 認定］日本ワインマスター［日本ワインを愛する会 認定］

メルシャン株式会社 http://chateaumercian.com/

好みのワインをブドウ品種から探ろう

世界各地で作られ、様々な個性を持つワイン。
第１回では、ブドウの品種から
ワインの魅力に迫ります。

ワインはブドウ 100% で造るお酒

ワインとはブドウを原料とした醸造酒のこと。ブドウには醸造の過程で必要な糖分や水分が含まれているため、余分なものを加えずブドウ 100% を原料として造られるのがワインの大きな特徴です。「原料のブドウの品種や風味」「ブドウの産地の気候と土壌」「ブドウ栽培やワインを醸造に携わる造り手の技術」の 3 つが美味しいワインを造るための大切な要素といわれています。

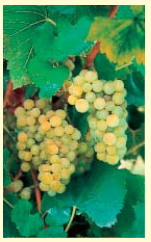
ブドウ品種から好みのワインを探そう

世界中で造られ多種多様な味わいが楽しめるワイン。様々な個性に触れながら好みの味を発見するのもワインならではの楽しみですが、種類が多すぎてお気に入りのワインを見つけるのは難しそうと思われる方も多いでしょう。そこでおすすめしたいのが、ブドウの品種からワインにアプローチする方法です。ブドウがワインに生まれ変わるとき、それぞれの品種によって異なる個性的な味や香りが造りだされるからです。その違いを理解すると、ワインを選ぶ基準がぐっと明確になっていきます。ここでは世界各地で生産されている代表的なブドウ品種と、その原料で造ったワインの特徴を紹介します。

赤ワイン用のブドウ品種

・カベルネソーヴィニヨン……女王・ボルドーワインに用いられ、ワインは濃く強い赤色。ワインの味わいはタンニンの強さが特徴だが、渋いだけでなく酸味との絶妙なバランスを保つ。
・メルロー……果皮はやや薄く、ワインの色は濃い赤で、味わいは丸みのあるなめらかな口当たり。カベルネソーヴィニヨンとの相性がよくブレンドされることも多い。
・ピノ・ノワール……糖度が高く、非常にフルーティ。ワインの色は深みのある明るい紅色。ワインの味わいはやや酸味が強く、渋みよりも果実味が勝る。ビロードのようなきめ細かい口当たりも魅力。
・マスカット・ベーリーA……昭和初期、交配によって生まれた日本固有のブドウ品種。大粒で生食にも。ワインの色は明るいルビー色。フォクシー・フレーバーと呼ばれる独特の香りを持つ。ワインは果実味があり、優しい口当たりとなめらかな味わい。

白ワイン用のブドウ品種



・シャルドネ……ブルゴーニュ地方の高級白ワインやシャンパンにも使われる。ワインはリンゴや柑橘類の果実のような香りを持ち、酸味とコクのバランスがとれた、キレの良い味わいがある。
・ソーヴィニヨンブラン……青草のような清々しいフレーバーを持ち、ワインの香りもさわやかでスパイシー。ワインはほどよい酸味が特徴的な味わいで辛口から甘口までバラエティに富む。
・リースリング……ドイツワインの代表的な品種。ワインは花や青リンゴの爽やかでフルーティな香りと豊かな酸味を持ち、甘味と酸味のバランスが絶妙。
・甲州……日本の固有品種。淡い赤紫色の果皮で、生食にも。ワインは上品で繊細な香りを持ち、柔らかな酸味と繊細な味わいが魅力。

◀ブドウの品種によって色・香・味わいの違いが楽しめる

ラベルから好みのワインを見つける

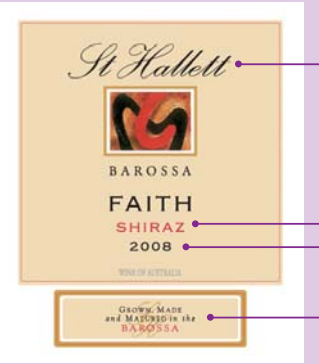
次はワイン選びです。その際にぜひ活用してほしいのがボトルに貼られたラベル。これは身分証明書のようなもので、そのワインの持つ様々な情報を読み解くことができます。

ラベルの表示方法は 2 つに大別され、フランス、イタリア、ドイツなどヨーロッパのワイン伝統国では「産地名・畑名・生産者名・収穫年」が記されているのが一般的です。一方、ワイン生産の歴史が比較的新しい『新世界』と呼ばれる国々（アメリカ、チリ、オーストラリア、日本など）では、ラベルにブドウ品種名が明記されるのが特徴。そこでまず、新世界のワインのラベルを読み解き、好みのブドウ品種のワインを選ぶ。さらに同じ品種でも異なる産地のワインなども飲み比べてみてはいかがでしょう。

またブドウ品種の記載がない伝統国のワインは、産地によってブドウ品種がほぼ決まっています。ソムリエなどに相談して好みのブドウ品種の産地やワインを教えてもらうのもよいでしょう。どんなワインを選んでよいかわからない、という方はまずブドウ品種を手がかりにしてワイン選びにアプローチするのもおすすめです。

次回 367 号では「ワインの楽しみ方のコツを知ろう」です。

新世界のワインラベルの読み方



ワイナリー名（セント・ハレット）
品種名（シラーズ）
収穫年（2008年）
産地名（バロッサ）

HUMAN HUMAN プラスはウェブサイトへ
eふぁみり もあわせてご覧ください！
http://jp.fujitsu.com/family/honbu/family/
eふぁみり
日本ワインの魅力についてご紹介！